



衣笠ホーム

永眠者記念会

衣笠ホームでは、かつてホームで生活を共にされた方々を偲び、毎年「永眠者記念会」を実施しています。今年も、11月26日(土)に昨年同様オンライン(Zoom)にて配信を行いました。記念会では、賛美歌312番の後、聖書朗読(新約聖書ヘブライ人への手紙)、衣笠病院グループチャプレン室室長大野高志牧師よりお話がありました。礼拝の最後には、「衣笠ホームで亡くなられた方々を偲んで」、開設以来にお亡くなりになられた方々(5年毎)、最近1年間にお亡くなりになられた方々のお名前が読み上げられました。

“大野牧師からのメッセージ”

「泣く涙、雨と降らなむ渡り川、水まさりなば、帰ってくるがに」という歌が古今和歌集にあります。この歌には「大切な人が亡くなり流す涙が雨になり降ってほしい。そうすればその雨があの世とつながり水があふれ、大切な人が帰ってくるのに」という愛する人を想う気持ちが込められています。

残されたものとしては、旅立っていった人の力を感じ、改めて、力強く生きていかなければと、力づけられているということに気づきます。

大切な方々は、「大切な命そのもの」、衣笠ホームでお暮しになられた方々との出会いが、私たちをつくってくださっていることに心から感謝いたします。



衣笠病院グループ

チャプレン室室長

大野 高志牧師

～ご家族からのお言葉をいただきました～



永眠者記念会の最後、ご参加のご家族に記念会の感想や、近況について伺いました。ご家族からは・・・

- ・「短い期間でしたが、衣笠ホームで最期を迎えることができて良かったです。」
- ・「叔母はクリスチャンでしたので、人生の最期の時をキリスト教の愛と温もりのなかで過ごせ、幸せだったと思います。」等、温かいお言葉をいただきました。

衣笠ホームでお過ごしいただきました大切な方々との思い出を振り返り、ご家族の皆さまと偲ぶことができましたことに、心より感謝いたします。ありがとうございました。

